

平成 28 年度継続課題に係る継続評価書

研究機関 : (株)エヌ・ティ・ティ・データ、(株)エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所、アルプス電気(株)

研究開発課題 : スマートなインフラ維持管理に向けた ICT 基盤の確立

研究開発期間 : 平成 26 年度 ～ 平成 28 年度

代表研究責任者 : 水野 大

■ 総合評価 : 適

(評価点 17 点 / 25 点中)

(総論)

削減された予算に対して適切に計画を立案し、概ね期待通りに進んでいるが、インフラ管理に必要なセンシングやアンテナの選定について検討することが望ましい。

(コメント)

- 計画された目標を達成し、削減された予算に対して適切に平成 28 年度の計画を立案している。ただし、インフラ管理に必要なセンシングを想定して技術開発内容を深めることが望まれる。
- 今年度のチップ評価結果で、受信感度が未達ではあるが、そもそも難しい課題に取り組んでおり、改善策が同定されているとのことなので、継続に大きな支障はないと考える。
- アンテナが重要になるので、平成 28 年度では、サイズなども含め、アンテナ選定の道筋も示すとよい。
- 概ね期待通りに進んでいる。鉄が近傍にある環境下でのパケット誤りについては、パケット長を小さくするというアプローチもある。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

概ね良好。目標が具体的であり、時刻同期は実際に適用される可能性が高いが、インフラ管理に必要なセンシング等について検討することが望ましい。

(コメント)

- 概ね良好。具体的な目標が現実的な数値で示されていてよい。
- インフラ管理に必要なセンシングとセンサ、それらが必要とする電力について検討することが望まれる。
- 時刻同期については実際に適用可能性が高い。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

計画通り、執行されており、適切である。

(コメント)

- 計画通り、執行されており、適切である。

(3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

フィードバックも行われ、計画された目標を達成しているが、他のユースケースにも使えることが望ましい。

(コメント)

- 計画された目標を達成している。
- フィードバックは行われており計画は妥当。
- 局所集中型低消費電力無線通信技術のシステムの方に電池残量モニタがあるとよいのではないかと。
- セキュリティ方式は一般的であり、他のユースケースにも使えることが望まれる。
- これまでのラボベースでの実績の上に実証に向けた計画が立てられている。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

適切に予算計画が立てられている。

(コメント)

- 予算半減に対して適切に予算計画が立てられている。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

デファクト化のための適用市場の検討を計画しており、また、運営委員会など適切に実施できる体制が整っている。

(コメント)

- デファクト化のための適用市場検討を計画している。
- 運営委員会など適切に実施できる体制が整っている。
- 本事業開始時に比較すると、土木系専門家のアドバイスも得られる形になっていて改善が見られる。